



こころを育む
総合フォーラム

こころを育む総合フォーラム 全国運動

2012
年度

活動のご案内

&

子どもたちの“こころを育む活動”

受賞事例

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、
下記企業からのご賛同・ご支援をいただき活動しております。

東海旅客鉄道株式会社

トヨタ自動車株式会社

パナソニック株式会社

株式会社読売新聞東京本社

こころを育む総合フォーラム 全国運動に関するお問い合わせ



こころを育む
総合フォーラム

公益財団法人 パナソニック教育財団内
こころを育む総合フォーラム
全国運動 事務局

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル 6階
TEL 03-5521-6100 FAX 03-5521-6200
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

●「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は文部科学省の後援を受けています。

「こころを育む総合フォーラム」より

「こころを育む総合フォーラム」は、昨今のさまざまな社会事象から浮かび上がる日本人の心の荒廃に危機感を抱き、はじめてをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

「こころを育む総合フォーラム」では、設立以来、日本人の心のありようについて討議を重ね、提言書をまとめ発表するなどの提言活動を行ってまいりました。また、この提言を具体化するために、子どもたちの「こころを育む」活動を応援し、広げるための全国運動を呼びかけています。東日本大震災に際しては、被災地の子どもたちに「安心して自由に集え開かれた居場所」が必要であるという思いを基に、支援活動を行ってまいりました。

この全国運動では、08年度より、全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となる優れた活動を表彰し、運動の元気づけを行っております。第五回となる12年度は、個人の部から2名、団体の部から13団体が選出され、もっとも優れた活動として、東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊が全国大賞に選ばれました。

本書では、第五回受賞の全15事例についてご紹介いたします。表彰式や受賞者交流会などを通じて受賞者の方々による交流も進み、「こころを育む」活動の輪が広がっています。本書が、受賞団体・個人をはじめ活動を続けている方々へのエールとなり、さらに多くの方々が「こころを育む」全国運動にご参加いただくきっかけとなることを、心から願うものであります。

「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバー (2013年3月31日現在) (敬称略・50音順)

安西 祐一郎(日本学術振興会 理事長)	滝鼻 卓雄(読売新聞東京本社 相談役)
石井 幹子(石井幹子デザイン事務所 主宰)	張 富士夫(トヨタ自動車 会長)
市川 伸一(東京大学大学院教育学研究科長/教育学部長)	遠山 敦子(パナソニック教育財団 理事長)
上田 紀行(東京工業大学リベラルアーツセンター 教授)	中村 桂子(J T生命誌研究館 館長)
梅田 望夫(コンサルティング会社 ミューズ・アソシエイツ社長)	野依 良治(理化学研究所 理事長)
大坪 文雄(パナソニック 会長)	平野 啓一郎(作家)
葛西 敬之(東海旅客鉄道 会長)	三村 明夫(新日鐵住金 取締役相談役)
梶田 叡一(奈良学園 理事)	山折 哲雄(国際日本文化研究センター 名誉教授)
金澤 一郎(国際医療福祉大学大学院 院長)	鷲田 清一(大谷大学 教授)
佐々木 毅(学習院大学 教授)	

CONTENTS ●目次

■活動のご案内

「こころを育む総合フォーラム」からの “七つの問い”	4
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」とは?	6
「こころを育む総合フォーラム」主な活動	8
「こころを育む総合フォーラム」活動の経緯	10

■受賞事例紹介

2012年度受賞事例【団体の部】

●全国大賞 地域と生徒との「共育・協育・今日行く」双方向の活動 東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊(兵庫県) 【活動領域:学校・地域】	12
●ブロック大賞(北海道・東北ブロック) 「三中コミュニティ」活動 酒田市立第三中学校(山形県) 【活動領域:学校・地域】	16
●ブロック大賞(関東ブロック) 小学生あつまれ! ~「知っている」を「やったことある」に~ 特定非営利活動法人 まえばら子育てネットワーク「豆の木」(千葉県) 【活動領域:地域】	18
●ブロック大賞(中部ブロック) いのちの授業 ~いのちを大切に作る家庭、地域、社会を築く~ 特定非営利活動法人 いのちをバトンタッチする会(愛知県) 【活動領域:家庭・学校・地域】	20
●ブロック大賞(中国・四国ブロック) トンネル壁画制作が結んだ中学生と地域の輪 古江地区地域安全推進員会(島根県) 【活動領域:家庭・学校・地域・企業】	22
●ブロック大賞(九州・沖縄ブロック) 青少年育成「机上論ではなく、行動力」「人の意識改革・人づくり」 次世代のためにがんばる会(熊本県) 【活動領域:家庭・地域】	24
●奨励賞 まつお文庫 まつお文庫(宮城県) 【活動領域:地域】	26

●奨励賞

「みんなのとしょかん」プロジェクト 一般社団法人 みんなのとしょかん(栃木県) 【活動領域:家庭・地域】	27
--	----

●奨励賞

三ツ又冒険遊び場たぬき山 特定非営利活動法人 子ども広場あそべこどもたち(東京都) 【活動領域:家庭・学校・地域】	28
---	----

●奨励賞

みやこだ自然学校 みやこだ自然学校の会(静岡県) 【活動領域:家庭・地域】	29
--	----

●奨励賞

こどもがつくるこどものまち「たぶんかミニとよなか」 公益財団法人 とよなか国際交流協会(大阪府) 【活動領域:家庭・学校・地域】	30
--	----

●奨励賞

親と子の心のSOSを受けとめて ~長期欠席・いじめ・ひきこもりで苦しむ子どもと親達の心を救い、学校・社会復帰へと導く~ 任意団体 NPO えひめ心のつばさ(愛媛県) 【活動領域:家庭・学校・地域】	31
--	----

●奨励賞

地域で取組む長期通学合宿 小船越町通学合宿実行委員会(長崎県) 【活動領域:家庭・地域】	32
---	----

2012年度受賞事例紹介【個人の部】

●個人賞

障がい児のための「おもちゃ図書館」活動 高村 豊(愛知県) 【活動領域:地域】	33
--	----

●奨励賞

小児病棟での絵本読み聞かせ 近江 敦子(北海道) 【活動領域:地域】	34
---	----

■2011年度受賞者紹介

35

子どもたちのためにできること

「こころを育む総合フォーラム」からの“七つの問い”

「こころを育む総合フォーラム」では、子どもたちのこころを育む活動のヒントとなる“七つの問い”を呼び掛けています。

家庭・学校・地域・企業など、子どもたちを取り巻くすべての場所で、きっとできることがあるのではないのでしょうか。

家庭

- 子育てはみんなの手で
- 大事にされているという体験、それが信頼の基礎
- 子育てにもっと高い社会的評価を
- 母親を孤立させないための仕組みを
- 子育てを楽しみと感じられる環境を

●家庭での育みを見なおすための七つの問い

- 1 幼い子どもに、親(保護者)は、たっぷり愛情をそそいでいるだろうか?
- 2 子どものよい点をしっかり誉めて、自信をもたせているだろうか?
- 3 子育ての不安、ストレスへの対応は、家族、親戚、近隣、保育所などでともに担われているだろうか?
- 4 子育ては苦労もあるが、幼いいのちを育む喜びと楽しみがあるということが、きちんと認識されているだろうか?
- 5 親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか?
- 6 家庭で、子どものころからよい生活習慣を身につけさせているだろうか?
- 7 子どもは社会のみんなが育てるもの、家庭はそのなかでもっとも重要なものだとして認識しているだろうか?

学校

- 学校は社会性を身につける場所
- とともに力を合わせて学校をつくるという態度を
- 「いじめ」をめぐって
- 学校をもっと開いていこう
- 社会の一人ひとりが人を育む気概を

●学校での育みを見なおすための七つの問い

- 1 学校は、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせ、先生や友人との関係をつうじて対人関係の基本を育てているだろうか?
- 2 教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか?
- 3 学校では、道徳教育を魅力的で説得的なものにするよう、工夫をしているだろうか?
- 4 道徳教育の時間だけでなく、学校全体で「こころを育む」という姿勢をとっているだろうか?
- 5 学校では、「こころを育む」ための具体的なアクションをとっているだろうか?
- 6 学校と親(保護者)とは、たがいの立場を尊重・理解し、協力しあう関係にあるだろうか?
- 7 学校と地域の大人たちは、一致協力して、子どもたちの居場所、子どもたちのための相談場所を設けているだろうか?

地域

- 子どもが自然に育つ場
- みんなで協同して事にあたる力を
- 地域社会の新たな役割
- 子どもの視点に立ったまちづくりを

●地域社会における育みを考えるための七つの問い

- 1 地域のだれもが、子どものこころを育むという姿勢で、子どもに接しているだろうか?
- 2 地域として独自の役割を考え、学校とセットで、子どもたちの学習環境をつくっているだろうか?
- 3 地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育てているだろうか?
- 4 地域のなかに子どもたちの居場所をきちんと設けているだろうか?
- 5 地域教育プログラムの充実と活性化を図っているだろうか?
- 6 地域活動への参加を子どもたちに促すための施策を実施しているだろうか?
- 7 子どもたちの視点に立ったまちづくりをしているだろうか?

企業

- 文化としての「育み」
- 思いどおりにならないこと
- 子どもたちを苛む(わたし)への問い
- 企業も地域における子どもたちの「育み」をともに担おう
- 情報社会という環境

●企業・メディアによる育み支援を考えるための七つの問い

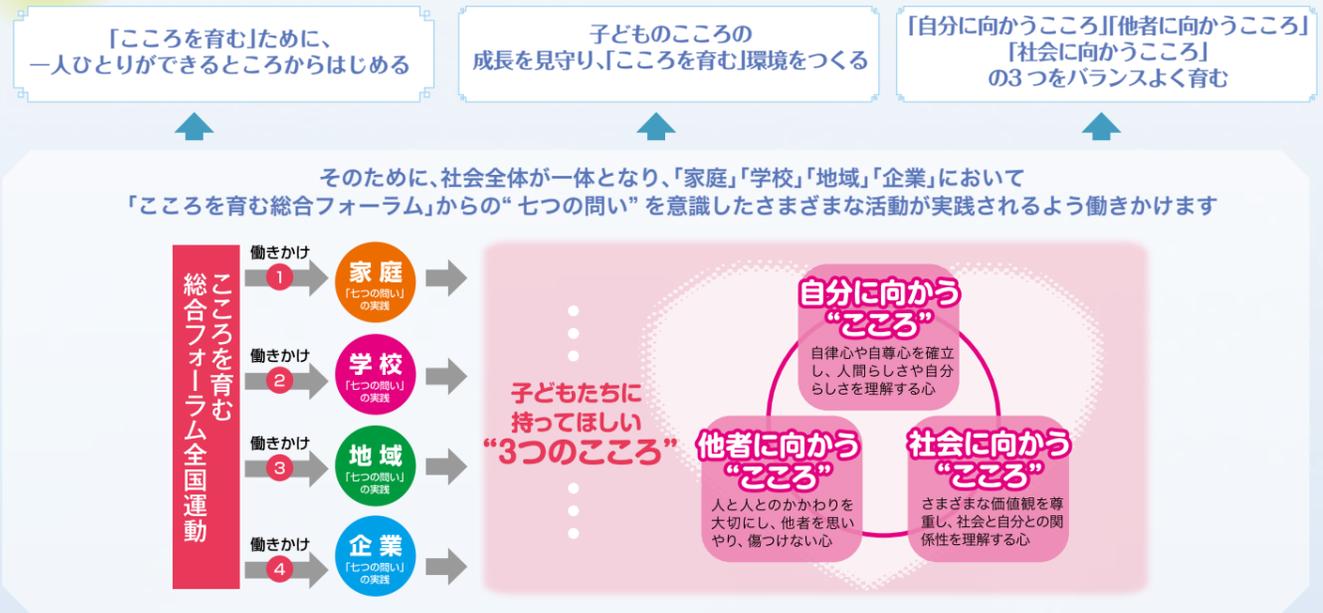
- 1 企業は、その使命と役割を自覚した行動ができているだろうか?
- 2 企業人は、みずからが同時に市民・生活者であることの自覚を十分にもっているだろうか?
- 3 企業人一人ひとりが、同時に市民・生活者として、よりよい社会づくりに積極的に関与しているだろうか?
- 4 企業みずからが、市民としての社員教育に積極的に取り組んでいるだろうか?
- 5 メディアは、子どもたちに学びや仕事の意義や楽しさを、きちんと伝えているだろうか?
- 6 メディアは、地域のすぐれた教育活動の事例を、進んで報道しているだろうか?
- 7 わたしたちの社会は、高度情報化社会が子どもたちの対人関係に与える影響を考えた対応をしているだろうか?

なぜ、今、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけるのか

想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たち日本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理感はどこへ行ってしまったのでしょうか。このような状況に危惧を持ち、未来を担う子どもたちのために、個人や団体でさまざまな活動をさ

れている方がいます。「こころを育む総合フォーラム」では、そのような活動を応援し、全国に広げるために、そして子どもたちの健やかな未来をみんなで考えるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

全国運動のねらい



全国運動を実施する主な事業とは

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を支援するために「呼びかける事業」「紹介する事業」「ほめる事業」「広める事業」の4つの事業を展開いたします。



呼びかける事業

■事業のねらい
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすことと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

■事業内容
パンフレット、ホームページ、新聞等のさまざまなメディアを活用しての広報を実施します。

- ① **社会全般への呼びかけ**
有識者会議[※]での検討内容を提言書として発信し、社会への呼びかけや問題提起をします。
※P2にメンバーを掲載しています。
- ② **大人への呼びかけ**
子どもたちのこころを育む活動を広く募集し、大人全般に呼びかけをします。
- ③ **子どもへの呼びかけ**
子どもたちのこころを育む活動について、各メディア等を通して子どもたちに呼びかけをします。

紹介する事業

■事業のねらい
全国で実践されているさまざまな子どもたちのこころを育む活動について、より多くの方々に知らせ、新たにそれらの活動へ参加したり支援をするきっかけを作ったり、活動の改善や新しい領域へ活動の輪を広げる機会を提供します。

■事業内容
“ほめる事業”に応募いただいた、全国の多彩な実践活動例の中から特に、子どもたちのこころを育む活動であり、進める・広げる・続ける「3つの工夫」が認められるなど、他の活動の参考となる事例を紹介するため、事例集を作成します。

- ① **事例集**
優秀事例に選出された活動について、目的や内容、主な実践プログラムをはじめ、参加した子どもたちの声、進める・広げる・続ける「3つの工夫」など、実践者の方々の取材を元に、具体的にわかりやすく紹介します。

ほめる事業

■事業のねらい
全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、運動の元気づけをします。

■事業内容
全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を自薦・他薦、活動の大・小も問わず募集し、審査の上、表彰します。

下記の「3つの工夫」のいずれかが認められること

- ① **応募できる活動**
 - 進める工夫** 活動の対象や目的が明確で、進め方における工夫・努力がある
 - 広げる工夫** ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある
 - 続ける工夫** 活動を継続するための仕組み・工夫がある
- ② **表彰の内容**

団体の部	全国大賞	1件	表彰状・楯・賞金100万円
	ブロック大賞	全国大賞が選出されたブロックを除き、各ブロックから1件	表彰状・楯・賞金30万円
	奨励賞	若干数	表彰状・記念品
個人の部	個人賞	若干数	表彰状・記念品
	奨励賞	若干数	表彰状・記念品

広める事業

■事業のねらい
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めるために、運動に関心のある個人、また団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことにより、運動のネットワーク化を進めます。

■事業内容
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めると同時に、表彰された活動を紹介し、また個人・団体同士の全国規模のネットワーク作り、情報交換の場として「シンポジウム」・「全国キャラバン」を実施します。

- ① **シンポジウム**
(年1回 東京開催予定)
全国から実践者を招き、優秀事例の表彰と紹介、有識者メンバーとのパネルディスカッションなどを通して、情報交換を行ったり交流を深めるために「シンポジウム」を開催します。
- ② **全国キャラバン**
(年1~3ヶ所開催予定)
「全国キャラバン」として、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で活動を実践している方々を招いてパネルディスカッションなどを行い、実践者と交流します。

有識者会議

2005年の「こころを育む総合フォーラム」設立以来、各界を代表する有識者メンバーによるブラックファースト・ミーティング（有識者会議）を続けています。ゲストスピーカーを招き、日本人の心のありようについて、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。



ブラックファースト・ミーティング。

提言書

有識者会議での討議の結果をご報告するとともに、家庭・学校・地域・企業などへのメッセージという形で、提言をまとめ、発表しました。さまざまな立場の方にこの提言をご覧ください、なんらかの活動をはじめ、ささげかけていただけたら幸いです。



提言書は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php>

全国キャラバン

フォーラム有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で「こころを育む」活動を実践している方々と交流する全国キャラバンを開催しています。子どもたちの健やかな未来を地域の皆さんと共に考え、「こころを育む」取り組みを広げていきたいと考えています。

◆ 全国キャラバン 2012 in 石博の里 ◆

「いま子どもたちのためにできること ～家庭・学校・地域がともに育む～」

日時：11月18日（日）

会場：三重県いなべ市立石博小学校

内容：2011年度のこころを育む活動“全国大賞”を受賞した、「石博の里コミュニティ」とともに開催しました。子どもたちをはじめ、保護者や地域の方々まで、幅広い世代から1,000名を超える方にお集まりいただきました。開会には、「石博の里コミュニティ」の森代表、いなべ市の日沖市長、パナソニック教育財団の遠山理事長よりごあいさつをいただきました。オープニングでは、石博の子どもたちによる演技や歌、続いてワークショップ、パネルディスカッションを行い、最後までたくさんの方にご参加いただきました。



オープニング

「♪幸せよ みんなの歌よ
流れゆけ 世界の果てに！」

◎石博の保育園・児童・生徒による演技・群読・演奏と歌



ワークショップ

「未来へ伝えたい・
つなげたい 私たちの宝物」

◎コーディネーター 小松 尚（名古屋大学 准教授）

パネルディスカッション

「いま 子どもたちのためにできること」

◎コーディネーター 小松 尚（名古屋大学 准教授）

パネリスト

日沖 靖（いなべ市長）
 水貝 明子（石博小学校校長）
 渡部 希（育友会母親代表）
 森 清光（石博の里コミュニティ代表）
 遠山 敦子（パナソニック教育財団理事長、元文部科学大臣）

コメント

山折 哲雄（こころを育む総合フォーラム座長）



トヨタ財団・パナソニック教育財団 東日本大震災支援 共同プロジェクト 「子どもの居場所づくりと次世代の育成」

公益財団法人トヨタ財団（会長：奥田碩）ならびに、「こころを育む総合フォーラム」事務局である公益財団法人パナソニック教育財団（理事長：遠山敦子）は、東日本大震災で被災した子どもたちの支援と、コミュニティ全体で子どもたちを守り育てる場作りのために共同プロジェクトを立ち上げ、岩手県、宮城県、および福島県において活動される団体の「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を行っています。

● 2012年度は、被災3県各1団体ずつ、計3団体に支援を実施いたしました。

一般社団法人
子どものエンパワメントいわて
（岩手県）

特定非営利活動法人
「人間の安全保障」フォーラム
（宮城県）

特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
（福島県）

2012年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式

2013年2月1日（金）、東海大学校友会館にて「2012年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式」を開催しました。

5回目となる今回は、全国から80名を超える参加をいただき、優秀事例の表彰、全国大賞受賞団体による実践事例発表、受賞者交流会を行いました。



● 挨拶
遠山 敦子
（パナソニック教育財団理事長、元文部科学大臣）

表彰式

12年度に募集した、子どもたちの「こころを育む活動」より選出された、優秀事例の表彰を行いました。個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、団体の部から奨励賞7団体・ブロック大賞5団体が選出され、もっとも優れた活動として、東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性化隊が全国大賞に選ばれました。



受賞者の皆様



● 講話
山折 哲雄
（こころを育む総合フォーラム座長）

全国大賞受賞の東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性化隊の皆様。受賞事例について発表もしていただきました。

全国大賞受賞実践事例発表

全国大賞を受賞した、東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性化隊による実践事例の発表が行われました。団体設立の経緯、具体的な活動内容をはじめ、活動を進める、広げる、続けるためのさまざまな工夫についてお話しいただきました。



交流会

来場者の皆様で受賞の喜びをわかちあうとともに、全国からご参加いただいた皆様の情報交換の場となりました。



有識者メンバーも交え、活発な意見交換が行われました。



こころを育む総合フォーラム活動の経緯

2005年

「こころを育む総合フォーラム」発足

- 4月 学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 10月 京都にてシンポジウムを開催



ゲストスピーカーを招いての有識者会議



有識者会議

2006年

- 10月 東京にてシンポジウムを開催

2007年

議論をまとめた「提言書」をプレス発表

- 1月 発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 11月 東京にてシンポジウム開催



日本プレスセンターで行われたプレス発表



シンポジウムの様子を伝える

2008年

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」スタート

- 6月 子どもたちの「こころを育む」活動の募集・表彰を開始
- 8月 高松・北見にて全国キャラバン開催



全国キャラバン高松

2009年

- 3月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2008年度表彰式・シンポジウム開催
- 8月 浦安にて全国キャラバン開催
- 12月 松江にて全国キャラバン開催
- 12月 「いま、こころを育むとは」(山折哲雄著・小学館新書)刊行



全国キャラバン浦安

2010年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2009年度表彰式・シンポジウム開催
- 10月 山形にて全国キャラバン開催
- 12月 大阪にて全国キャラバン開催



2009年度表彰式での実践事例発表

2011年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2010年度表彰式・シンポジウム開催
- 11月 熊本にて全国キャラバン開催
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2011年度支援実施



2010年度受賞者のみなさん

2012年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2011年度表彰式・シンポジウム開催
- 4月 新有識者メンバーを迎え、さらなる討議を開始
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2011年度報告会
- 7月 東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2012年度支援実施
- 11月 三重にて全国キャラバン開催
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2012年度報告会



全国キャラバンやシンポジウムでの講演内容をまとめた一冊。「いま、こころを育むとは」山折哲雄著(小学館)

2013年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2012年度表彰式開催

子どもたちの“こころを育む活動”

2012年度 受賞事例

「こころを育む総合フォーラム」では、

全国各地で実践されている子どもたちの「こころを育む」活動を募集し、

優れた事例を支援し、紹介する全国運動を展開しています。

審査・選考は、子どもたちの「こころを育む」活動であること、

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫が認められることなどを基準に行われます。

第五回となる2012年度は、個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、

団体の部から奨励賞7団体・ブロック大賞5団体が選出され、

もっとも優れた活動として、

東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊が全国大賞に選ばれました。

子どもたちの「こころを育む」活動の輪がさらに広がることを願い、

ここに12年度の全受賞活動事例をご紹介します。



アイコン説明

受賞事例紹介ページでは、「活動領域」と「活動を通して育むことができる3つのところ(くわしくは6ページ)」をアイコンで表示しています。

●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

●3つのところ

- 自分に
- 他者に
- 社会に





地域と生徒、2つの組織が連携
地域・保護者による「東中ファミリーサポーターズ」と、中学生による「東中地域活性隊」、2つのボランティア組織が連携し、さまざまな活動を行っています。

地域と生徒との「共育・協育・今日行く」双方向の活動 地域・学校・家庭と生徒たちによる 循環型の地域活性活動

●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

●3つのこころ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

活動内容の紹介

「東中をよくしたい」地域の思いが 子どもたちを動かし、双方向の活動へ

「東中、そして校区を元気にしたい」という思いから、地域住民と保護者により設立されたのが、ボランティア組織「東中ファミリーサポーターズ」です。「ファミリーサポーターズ」は、学習支援・校内整備・図書活動などの学校サポート活動を行ってきました。そのサポートを受け、活動を見てきた生徒たちが「地域にお返しをしたい」と考えるようになり、自主的に結成したのが、ボランティア組織「東中地域活性隊」です。現在、「ファミリーサポーターズ」と「地域活性隊」が連携しながら、さまざまな活動を行っています。



地域住民が活動に参加
地域住民の協力による、手打ちそば体験。多くの地域住民と保護者が、「東中を元気にしたい」と、活動に参加しています。



東中ファミリーサポーターズとは

学習支援・校内整備などの学校サポート活動を行う 地域住民と保護者によるボランティア組織

学校の立て直しや学力向上を目指し、東中学校とPTAが連携して土曜日の学習会「サタスタ東」を始めたのをきっかけに、以前から行われていた整備活動や新たな活動を集約して組織化された、ボランティア組織です。高校生から83歳の高齢者まで、幅広い年代の地域住民がメンバーとして登録しており、地域・学校・家庭が協力して子育てできる環境づくりを目指し、さまざまな活動を行っています。



学校に笑顔を
「ファミリーサポーターズ」の活動の一つである、スマイルサポートによる校内装飾。

東中ファミリーサポーターズの活動

■学校に笑顔を！ スマイルサポート（校内整備）

学校中に色とりどりの掲示物を作成し、校内の装飾に尽力しています。



■学校に温かい文化を！ カルチャーサポート（文化支援活動）

学校の茶室を活用した「茶道を楽しむ会」などの文化的活動を実施し、ファミリーサポーターズ会員同士の交流の場ともなっています。



■学校に多世代交流による学び合いを！ スタディーサポート（学習支援）

土曜日に自主勉強する場「サタスタ東」を運営しています。大学生を中心とした「学生部」・高校生・教員OBなど、幅広い年齢層がスタッフとして参加しています。「学習習慣の定着」「居場所づくり」「学力の向上」を目指し、学習のサポートや進路相談を行っています。



運営に関しては、大学生が主体となり、計画・実行・評価・改善し、次回に還元するというサイクルを導入しています。スタッフにとっても貴重な学びの機会となっており、大学生のスキルアップの場、教員育成の場としても機能しています。

■学校に知恵の種を！ ライブラリーサポート（図書活動）

学校図書館の整備をはじめ、図書をワゴンに積んで教室まで運ぶ巡回図書館など、生徒が本とふれ合う機会を増やす取り組みを行っています。



■学校に癒しを！ グリーンサポート（校内緑化）

校内の緑化とその維持、校舎外の清掃・美化などを行っています。

東中学校有志の生徒による 地域貢献を目的としたボランティア組織

生徒からの「お世話になっている地域に恩返しをしたい」「自分たちもボランティアをやりたい」という声をきっかけに、顧問教員の元で希望する生徒が登録する部活動のような形で組織化された、東中生徒によるボランティア組織です。80名の生徒が登録しており、イベントの手伝いなど、地域に出向いてボランティア活動を行っています。

東中地域活性隊の活動

地域の祭りや市内のイベントに出向き、ボランティア活動を行っています。月2～4回の活動を行っており、2012年度は計23回の活動を実施しました。

- エアポートフェスティバル
- 地域イベントの手伝い
- 被災地支援バザーの手伝い
- 東北との交流イベント開催

活動の成果・広がりなど

生徒の自尊感情・自己肯定感を育成 継続した活動により教育の好循環も

「ファミリーサポートズ」と「地域活性隊」、双方向の連携により、地域との結びつきが強固になっています。「東中生がいないと祭りができない」「東中生が来てくれて助かっています」といった地域の声が励みとなり、生徒たちは元気に活動を続けており、自尊感情や自己肯定感の育成に大きく役立っています。また、「地域活性隊」の生徒が、卒業後、高校生のOBスタッフとして「ファミリーサポートズ」に入ったり、「サタスタ東」で学習支援を行っていた大学生が、卒業後、教員として学校に戻るなど、教育の循環が進んでいます。



地域に出向いて活動
東中生徒による「地域活性隊」は、地域の夏祭りの会場設営など、地域に出向いてボランティア活動を行っています。



ライブラリーサポートの図書活動
ライブラリーサポートによる、朝の読み聞かせ活動。生徒が本とふれ合う機会づくりのために、さまざまな活動を行っています。



被災地支援活動
被災地支援バザーの手伝い。「地域活性隊」の生徒が卒業して「ファミリーサポートズ」に入るなど、教育の循環も進んでいます。



広がる活動の輪
「サタスタ東」オープニングコンサート。活動に、個人の経験やアイデアを活かせることなどから、多くの地域住民が参加しています。

地域の祭りやイベントをお手伝い
「地域活性隊」による、地域の祭りの手伝い。地域で評価される体験を通して、生徒は自信や郷土愛を育てています。

♪ 参加した皆さんの声 ♪

■ 活動してみると、こんな自分でも役に立てるんだということが実感でき、とても充実できる活動だということがわかりました。ゆるキャラの誘導係など、活性隊に入ったからこそできる貴重な体験をすることができました。活動を通して思ったことは、役に立たない人なんていないということです。自分が働きかけたり、お手伝いすることで助かる人もいます。そういったことも学ぶことができた東中地域活性隊だったのではないかと思います。（「東中地域活性隊」生徒）

■ 僕たちは、5月28日、今までで一番大きいであろうイベントの中心集団として活動しました。それは「空楽」フェスタです。（中略）この活動には数々の苦労がありました。空港の方と何度も話し合いや打ち合わせをしたり、地域へ配布するためのプリントを作成したりと、このようなことを乗り越えて実現したのです。その甲斐あって、すべて順調に進み、無事に活動を終わることができました。僕自身は一年半程度しか活性隊としての活動をしていませんが、非常に有意義で、充実した中学校生活を過ごすことができたと思います。（「東中地域活性隊」生徒）

■ 東中地域活性隊に入って、人の役に立つことの大切さを学びました。人の役に立つことによって喜んでもらえたり、逆に助けられてもらえたりして交流の輪も広がります。東中地域活性隊の活動で、僕自身も勉強になるし、何より地域の人を助けることになってとてもよい活動だと思います。（「東中地域活性隊」生徒）

■ 人の役に立って感謝される体験は、大人にとっても子どもにとっても、大きな感動であり快感です。活動を通して、善意の力がどんどん伝染し、広がっているのを感じています。（「東中ファミリーサポートズ」地域ボランティア）

■ 「サタスタ東」での学習サポートでは、成功と失敗をくり返しながら、伝わる喜びと伝わらないもどかしさを体験しています。生徒の反応、先生方の言葉からも、多くのことを学んでいます。（「東中ファミリーサポートズ」大学生ボランティア）

3 つ の 工 夫

進める工夫

地域住民が気軽に参加できる組織と環境を整えたことで、生徒や教員を巻き込み、活動が大きく展開しています。「ファミリーサポートズ」には、幅広い年代の地域住民が参加しており、年3回のリーダーミーティングなどを通して、各部門の連携を図っています。「サタスタ東」を運営する学生部が、伊丹市まちづくり推進課とタッグを組んで新たにボランティア組織「伊丹学生交流センター」を結成し、地域の公共施設で学習支援を行うなど、活動が発展しています。

広げる工夫

都合のいい時に参加できること、活動内容が参加者に任ざっており個人の経験やアイデアを活かせること、校内に拠点があり地域の交流の場ともなっていることなどから、さまざまな世代の地域住民が楽しみながら活動に参加しています。「サタスタ東」では、大学生ボランティアが「学生部」を組織し自主的に企画運営に当たっており、貴重な学びの場として口コミで広がり、ボランティア登録者が増加しています。学校と地域連携のモデルケースとして、伊丹市全体への広がりを目指しています。

続ける工夫

「地域活性隊」だった卒業生が高校生ボランティアとして参加したり、卒業生の学生ボランティアが教員として東中に戻ってくるなど、教育の循環が始まっています。人材循環の輪がさらに大きくなるよう、校区内の小学校とも連携を進めています。理系大学院生を招き「サイエンスカフェ東中」を実施したり、子育てサークルと読み聞かせ会を開催するなど、校外のボランティア団体との連携も始まっています。地域イベントに屋台などを出店し、利益を活動資金に充てています。



中学生自らが企画
中学生が、自分たちができることを考え企画し、地域住民と話し合いながら、活動を進めています。

「三中コミュニティ」活動

中学生と地域、一体の活動で 「地域の子どもを地域で育てる」環境づくり

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

中学生自ら「地域のためにできること」を企画

「三中コミュニティ」は、酒田市立第三中学校の3年生を中心とした地域活動で、「総合的な学習の時間」の学習単元として実施しています。中学生が「地域住民とのふれ合いを通して自治会活動を知り、地域の一員としての自覚を深めさせること」「地域活動の計画・実施を通して、地域の中でよりよく生きていこうとする意欲を育てること」を目標に、活動を進めています。生徒たちは、「自分の地区で中学生ができること」を考え企画し、地域住民と話し合い、協力を受けながら、さまざまな活動を行っています。



自分の地区で活動
公園の清掃活動。生徒が各地区の自治会や住民と一緒に、さまざまな活動を行っています。

活動の広がりなど

活動を通してつながる学校・生徒・地域の輪

活動を行う前は、存在すら知らなかった自治会の役割や組織について、多くの生徒が理解を深めています。生徒たちは、地域で認められ、評価される体験を通して大きな自信を得て、さらに地域のためにがんばろうという意欲が生まれています。8年間の活動継続により、学校と地域、生徒と地域住民のつながりが深まり、教育・治安・地域活性化などさまざまな面でプラス効果が生まれています。活動を体験した生徒が、大学を卒業し、地域に戻ってくるなど、「地域の子どもを地域で育てる」ための環境づくりが進んでいます。



生徒と地域につながり
フリーマーケットの収益金を自治会長へ。活動を通して、生徒と地域住民のつながりが深まっています。



活動継続により地域が活性化
8年間の活動継続により、「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりが進んでいます。



「三中コミュニティ」活動

●活動の流れ

- 1 年度当初、地区毎に生徒が「自分の地区で中学生ができること」を考え、企画する。
- 2 企画について、生徒と各地区の自治会長が話し合い、改善し、活動計画を決定する。
- 3 活動計画を、各地区の地域住民・保護者にプレゼンし、場合によって協力を依頼する。
- 4 夏休みや土・日曜を利用して、生徒が各地区の自治会や住民と一緒に活動を行う。

●具体的な活動内容

■夏祭りの手伝い

会場設置、緑日販売など運営の手伝い、ポスター制作、太鼓の演奏などを行っています。

■フリーマーケット開催

地域住民に協力を呼びかけ、提供してもらう品物の回収、値付け、販売を行っています。収益金は、社会福祉協議会などに寄付しています。

■公共施設の清掃

地域の公園など公共施設の清掃を行っています。

■雪かき作業

雪かきや落葉拾いなど、季節に応じた環境整備活動を行っています。

■高齢者との交流

地域の高齢者にプレゼントを届けるなどの活動を通して、世代間交流を深めています。

■廃品回収 ■ラジオ体操の運営 など

参加した皆さんの声

■私は、今年一年の活動を終えて、地域の人と交流する機会が多くなった気がします。私は地域活動を一度も休んだことがありません。特に今年は、夏祭りのポスターを作成し、自治会長さんからもとても喜んでいただいたり、たくさんの人から感謝されとてもうれしかったです。去年に引き続き、夏祭りのアナウンサーをやり、そこでも地域の人たちと関わり、今年も夏祭りを無事成功させることができて良かったです。一年間の活動を通して気づいたことは、地域のすばらしさです。陰でたくさんの人たちが「こがね町」を支えていて、その人たちのおかげで私たちが暮らしていけるんだと思います。私にとってとても良い経験になりました。(3年生)

3つの工夫

進める工夫

地域で活動を理解し支えてもらうために、各地区の自治会長と、各地区で生徒を支援する「地域活動協力員」との協力体制を重視しています。自治会長を定期的に学校へ招き、生徒との話し合いを設けています。年度末に自治会と教育推進委員の懇談会を設け、出た意見や要望は、すぐに次年度に反映しています。

広げる工夫

生徒が地区懇談会に参加し、地域住民に地域活動を説明すると共に協力要請を行っています。自治会だより、コミュニティ新聞、PTA広報誌などを通して、地域住民に広く情報を発信しており、地域住民や保護者の参加が増えています。PTAと連携し、「地域活動協力員」選出、地区懇談会運営などに協力してもらっています。

続ける工夫

活動の継続により、予算を計上してくれる自治会も増えるなど、活動が地域に浸透しています。「地域活動協力員」を毎年度末に選出し、次年度へ活動の引き継ぎを行っています。魅力的な地域づくりのために、地域の若い世代から高齢者までさらに幅広い世代が協力し合える活動を目指しています。



多彩な体験プログラム
工作、創作、野外活動、調理を
はじめ、さまざまな体験プロ
グラムを行っています。

小学生あつまれ！～「知っている」を「やったことある」に～ 多彩な体験と異学年交流を通して学び、育つ、 子どもたちの活動の場

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

母親たちによる、子どもがのびのび育つ場づくり

「豆の木」は、まえはら子育てネットワークが運営する幼児教室の母親たちが中心となって立ち上げた、地域の子どもの活動の場です。小学生を対象に、「体験すること」「人と豊かな関係を築くこと」をテーマに、多彩な体験プログラムを実施しています。活動は、異学年によるグループで行い、子どもたちは、工作、創作、野外活動、調理などさまざまな体験をします。また、スタッフとして幅広い年代の母親が集まっており、子育ての相談や情報交換ができる子育て支援の場ともなっています。

活動の広がりなど

プログラムの充実で、参加者に広がり

年間10～15のプログラムを実施しており、10年間の活動に、のべ5,900人の小学生が参加しています。プログラムは、スタッフ会議でアイデアを募るほか、外部講師を依頼するなど新たな取り組みも行い、活動の幅が広がっています。人気のプログラムには多くの参加希望者が集まり、募集枠を増やすなどして対応しています。子どもたちは、多種多様なプログラムによって、発見する驚きや知るおもしろさ、達成する喜びを味わい、異学年の仲間とのふれあいや縦のつながりによって、人と関わる力を養っています。



新しい体験を提供
クリスマスの飾り作り。新しい体験を通して、好奇心を育むプログラムを企画しています。



科学体験教室「アトムのへや」
虫めがねや空き缶など、身近なもので科学を体験するプログラム。人気のプログラムには、多くの参加希望が。



達成する喜びを体験
活動を通して、子どもたちは、発見する驚きや知るおもしろさ、達成する喜びを体験しています。



「豆の木」の体験プログラム

■芋づくり体験プロジェクト

さつま芋の苗植えから収穫までの農業体験。ネイチャーゲーム、バツ取り、看板作りなども行います。

■あそんで学ぶ寺子屋

合言葉は「挑戦」の2日間連続プログラム。工作、染物、おまつり(縁日・盆踊り)の創作などに取り組みます。昼食も、カレーや手打ちうどんなど、子どもたちが自ら調理して食べています。

■バス遠足

防災センターや航空機整備場、産直センターなどに、社会科見学を行います。

■野原の達人・森の達人

地域の自然を活用し、秘密基地作り、ネイチャーゲーム、野外料理などを体験します。

■科学体験教室「アトムのへや」

虫めがねで手作りカメラ、空き缶でわたがし機、風船で静電気体験など、身近なもので科学を体験します。

■子ども人形劇団

台本作りから舞台発表まで行います。

■和菓子作りや茶道などの伝統文化体験 など



伝統文化体験
和菓子作りや茶道など、伝統文化に触れられるプログラムも。

♪ 参加した皆さんの声

- 年上や年下、いろんな子と一緒に何かをするのはここ以外にないので楽しい。
- 家じゃできないことができるのが面白い。
- 自分たちで考えて割りあげる企画が楽しい。
- 高学年になるとリーダー的な仕事が増えて大変だけど、それも楽しい。
- 何年も参加していると企画もあるけれど、やり方が少しずつ違ったり自分の楽しみ方も変わるので、何度でも参加したい。

3つの工夫

進める工夫

自然や実生活の体験を通して、子どもたちがのびのびと学び、育つ環境をつくるために、新しい体験を提供し好奇心を育むプログラムを企画しています。異学年の5～8人によるグループを編成し、役割を分担して、子どもたちが相談・協力しながらコミュニケーション能力を育めるよう工夫を図っています。

広げる工夫

まえはら子育てネットワークが運営する幼児教室や親子サークルなどと連携し、人の輪を広げています。また、ホームページ、メルマガ、生協の広報紙などを通して、幅広い地域に情報を発信しています。定着したプログラムは残しながら、常に新たな試みも行い、より多くの子どもたちが参加できるように、活動をアピールしています。

続ける工夫

運営スタッフには毎年希望者が加わり、現在31人が登録しています。自分の得意分野や都合の良い時間帯のプログラムを選んで参加するため、無理なく続けられます。小学生の母親から大学生の母親まで、幅広い世代のつながりは、スタッフにとっても子育ての相談や情報交換のできる心強い拠り所となっています。



「いのちの授業」を実施
地域や学校で、いのちの大切
さを伝える「いのちの授業」
を行っています。

いのちの授業 ～いのちを大切に する家庭、地域、社会を築く～ いのちを大切に する環境づくりを目指し、 いのちを考える機会を広く提供

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

いのちの大切さ、家族の絆を伝えるために

いのちを大切に
する家庭・地域・社会を築くことを目的とし、学校や地域で「いのちの授業」を行っています。代表の鈴木さんは、長女の小児がん発病を機に、小児がんの支援活動に取り組みはじめ、「いのちをバトンタッチする会」を設立しました。授業では、生と死に向き合うことをテーマに、小児がんの少女と家族の姿を語り、いのちの大切さを伝え、いのちについて深く考える機会を提供しています。園児から大人向けまで、対象者別にニーズに応じた授業方法を開発し、実践しています。

活動の広がりなど

全国15万人が「いのちの授業」を体験

「いのちの授業」を全国の保育・幼稚園、学校、地域において、8年間で1,000回以上実施し、15万人を超える参加を得ています。さらに、教育学会などでの事例紹介、団体や企業の社会貢献活動との連携、一般向けフォーラムの開催などを通して、家庭・学校・行政・企業・団体のネットワークを築き、活動の輪を広げています。いのちの教育をリードできる団体になることを目指し、授業のDVD化や映画製作などの新たな活動に取り組み、活動基盤のさらなる強化を図っています。



対象者に合わせたプログラム
小学校の道徳授業。子ども、保護者、教師、親子向けなど、対象者に合わせたプログラムを開発しています。



フォーラム「広げよう！いのちの授業」
フォーラムの開催などを通して、ネットワークを築き、活動の輪を広げています。



全国で活動を展開
全国に出向き、参加者やニーズに応じた授業・講演を展開。
15万人以上が「いのちの授業」を体験しています。



3つの工夫

進める工夫

園児、小学生、中高生、保護者、教師、親子など、授業の対象者とニーズに応じて、映像や音楽を取り入れた授業プログラムを開発しています。プログラムの開発実践に当たっては、教育学の専門家や教育現場の教師の協力を得て、試行・評価を行い、教育の質の確保と向上に努めています。

広げる工夫

会報の発行やワークショップを通じて、全国の会員と思いを共有化。会員が地域の学校や行政に提案することで、授業の機会が増加しています。学校保健大会や道徳研究会での事例紹介、青少年育成団体や企業との連携、フォーラム「広げよう！いのちの授業」開催などの活動により、広くネットワークを築いています。

続ける工夫

ホームページ、会報、メールマガジン、DVDなどを通して、情報の共有化と参加者のモチベーション向上を図っています。新規プログラムの開発や人材育成に当たっては、関係団体の助成を得ながら、活動の質の向上に努めています。会の理事や顧問に有識者らを迎え、長期継続的な活動を目指しています。

参加者・ニーズに応じた授業・講演・セミナーを実施

■いのちの授業I～いのちのバトンタッチ

小児がんの少女と家族の姿を通じて、生と死に向き合い、いのちの大切さと家族の絆をみつめます。

●園児・保護者向、小学生向、中学生以上向、一般向の4コース。

■いのちの授業II～いのちを大切に する心を育む

「いのちの授業I」に加えて、子どもの「いのちを大切に
する心」の育て方を語ります。

●保護者、教育関係者向。

■いのちの授業～親子塾

小学生向「いのちの授業I」に、車イス・ブラインドウォーク体験、語り合いを加えます。親子や家族で、感動・発見・体験する中で、いのちと家族をみつめます。

●学校、地域、団体、職場での親子体験イベント向。

■いのちと医療

患者・家族の目線から、患者家族の思い、良き医療・社会福祉の心などを語ります。

●専門学校、大学、医療・福祉・介護団体向。

■臨床いのちの講座

いのちへの確かな思いをもつ専門職（医療者、MR、社会福祉職等）を育むための特別講座。

●専門セミナー、大学・専門学校向。

■生きる幸せ、働く喜び

いのちをキーワードに、本当に大切なこと、どう生きるか・働くかについて考えます。

●社員研修、経営セミナー向。

他、講演、半日・一日セミナー、映画上映会など

♪ 参加した皆さんの声 ♪

■いのちのバトンタッチの言葉を聞いて、いのちはつながっている、自分だけではなく未来に生きていく人たちのためにもあるんだと思いました。(小学生)

■今、こうして生きていることは、とても幸せなんだと感じました。一日一日を一生懸命に生きます。親より絶対早く死んではいけなかったと思いました。(中学生)

■お母さんと一緒に泣きました。一番大切なことがいのちだと気づきました。家族って本当に大切なんだと心に響きました。(中学生)



中学生と地域、一体の活動
トンネルの落書き消しをきっかけに、トンネルの壁画制作、駅の清掃と、地域が一体となり活動が広がっています。

トンネル壁画制作が結んだ中学生と地域の輪 中学生の自信と郷土愛を育む 地域協働のボランティア活動

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

落書き消しから、広範囲の活動へ発展

湖北中学校の校区にあるトンネルにされた落書きに対し、湖北中学生徒会と古江公民館・古江駐在所・古江地域安全推進員会が集まり、落書き消しを行いました。これをきっかけに、トンネルの壁画制作、駅の清掃と活動が発展し、中学生が、小学生・保護者・地域住民と協働で行うボランティア活動として、地域に輪が広がっています。中学生が地域の人間であることを自覚し、故郷を愛する心を持ってもらうこと、また地域の防犯やモラル向上を目的として、活動を続けています。

活動の広がりなど

中学生が、地域の一員として成長

15名ほどで始まった落書き消し活動が、3年目の2011年度は、湖北中校区全体の取り組みとして実施したことにより、公民館・地域団体・保護者・児童・生徒・教職員計117名が参加しての大きな活動へ発展しました。中学生は地域に貢献する楽しさを知り、達成感を得て、地域の一員としてたくましく成長しています。また、活動を通して地域住民が中学生とふれ合うことで、地域と中学校の距離が縮まり、活動への参加や学校見学が増えるなど、交流が盛んに行われるようになりました。



地域住民との壁画制作
落書きを消したトンネルの壁面に、中学生と地域住民らが協力して壁画を制作しています。



地元の駅を清掃する「お掃除大作戦」
将来、通学や通勤でお世話になる地元の駅を、校区の小学生や地域住民と一緒に清掃する「お掃除大作戦」



小さな活動が大きく発展
駅の清掃など、校区全体の取り組みに発展。活動を通して、中学生は地域に貢献する楽しさを実感しています。

ボランティア活動発展の経緯

■2009年12月

校区にあるトンネルに落書きがされたのに対し、「毎日、通学路にあるトンネルの落書きを当たり前として通っている、中学生の心は育たない。中学生も一人の地域の人間であることを自覚し、自分の故郷を愛する心を持ってもらおう」との思いから、活動を開始。湖北中学生徒会、古江公民館、古江駐在所、古江地域安全推進員会が集まり、落書き消しを行いました。

■2010年10月

きれいになったトンネルに再び落書きされないよう、壁画の制作を企画。湖北中美術部生徒が原案を考え、地域に住む日本画の先生の指導を受け、湖北中学生・小学生とその保護者・地域住民が集まり、トンネル片側に壁画を描きました。

■2011年10月

トンネルのもう片側に壁画を描く活動に加えて、湖北中校区全体の取り組みとして校区の小学校と連携し、駅の清掃活動を行いました。湖北中学生・小学生とその保護者・地域住民と一緒に掃除をする「お掃除大作戦」へ活動が広がりました。



♪ 参加した皆さんの声 ♪

- トンネルに下絵を描いていると、通りかかった地域の方が「がんばってね」「新聞見たわよ」と声をかけてくれて嬉しかった。
- 地域の方に絵の指導をしていただけて勉強になったし、一緒に描くことができていい思い出になった。
- たくさんの人で掃除をしたのでとてもきれいになりました。みんなですると、掃除も楽しいです。

3つの工夫

進める工夫

落書き消しから始まった小さな活動を、湖北中校区全体の取り組みとしたことで、地域を巻き込み大きく広がっています。活動に必要な消耗品や道具類は、松江市や地域住民から借りたり、「地域力向上」モデル活動支援事業の助成金を活用するなどし、参加者の負担を抑え積極的に参加できるよう工夫しています。

広げる工夫

家族の絆、ふれあいを深める日として定められた「しまね家庭の日」を活動日とすることで、多くの生徒・児童とその保護者が参加するようになりました。公民館、小中学校、町内会などにチラシを配布し掲示することで、校区全体に活動を周知。3年間の活動で、のべ175人が関わっています。

続ける工夫

資金がなくてもできる活動をすることで、継続が可能となっています。小中一貫教育地域推進協議会との連携により、有識者や民生委員など多くの方が関わり、毎年恒例行事として地域に根付きつつあります。壁画完成後も、駅での絵画展示など新たな活動を企画し、さらなる継続と発展を目指しています。

●所在地：〒690-0151 島根県松江市古曾志町1517-3 ●TEL：0852-36-8054 ●E-mail：kohoku-j@city.matsue.ed.jp
●代表者：中倉 敏彦/担当者：大町 由紀子



体で学ぶ環境教育
河川浄化活動「かき殻まつり」。持続可能な地域社会づくりの活動の輪拡大を目指し、さまざまな活動を展開しています。

青少年育成「机上論ではなく、行動力」「人の意識改革・人づくり」 官・学・民・企業が協力し 実践型環境教育の場を提供

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

次世代を担う子どもたちに環境教育を

次世代の子どもたちのために、行政・学者・市民・企業が協力し合い、実践型環境教育を実践しています。体で学ぶ環境教育を目指し、河川浄化活動、浜辺の掃除大会、間伐材による木工教室、小・中・高校への出前授業などを行っています。「地球規模で考え、地域レベルで行動する（Think globally, Act Locally）」をモットーに、子どもから大人まで地域住民の環境意識を変え、持続可能な地域社会づくりの活動の輪を広げることが目的とし、活動を展開しています。

活動の広がりなど

地域リーダー育成の場としても機能

官・学・民・企業の共同体により、多岐に渡る取り組みを11年半に渡り継続しています。発足当時の目標でもあった、教育現場での環境教育も実現しました。幅広い世代と一緒に活動することにより、世代を超えて交流が深まり、希薄化していた地域コミュニティが再構築されています。八代市内の全高校が参加しているほか、高専生・大学生にもボランティアを募り、活動は若い世代の環境意識を高めると共に、地域リーダー育成の場ともなっています。



浜辺の大掃除大会
市と共催する浜辺の清掃活動。八代海沿岸地域の学校や団体等と一斉行動することで、自然再生への意識を高めています。



世代間交流の場にも
幅広い世代と一緒に活動し、世代間交流を深めています。学生ボランティアが多数参加しており、次世代の地域リーダーが育っています。

多彩な実践型環境教育プログラム

河川浄化活動「かき殻まつり」・浜辺の大掃除大会・子どもごみパトロール隊の各活動は、国土交通省八代河川事務所・熊本県地域振興局・八代市・八代市教育委員会の後援を得て実施しています。

■河川浄化活動「かき殻まつり」

汚染の厳しい河川やダム湖に、牡蠣の殻を投与する浄化活動に長年取り組んでいます。現在では、幼児・小学生・中学生・高校生・大学生・地域住民らが参加し、環境学習の場だけにとどまらず、世代を超えた交流の場となっています。

■浜辺の大掃除大会

八代市との共催で、八代海浜辺の清掃活動を行っています。浜辺でごみを拾い、ごみ調べ・分別・水質検査の体験学習をすることで、海や川にごみを捨てない人づくりと八代海が生活に与える恩恵を学びます。

■子どもごみパトロール隊

熊本県地域振興局と協力し、ごみをテーマにした環境学習会を行っています。小学校で「ごみが自然界へ与える悪影響・ごみが地球温暖化を加速している」という内容の授業を実施後、子どもたちと教員、行政・企業・市民（保護者含む）で川周辺のゴミ調べをします。

■環境学習会

小・中・高の依頼校へ出向き、環境に関する授業・地域の河川などの水質検査・環境カードゲーム・ネイチャーゲームなどを組み合わせた、環境学習会（環境出前授業）を行っています。

■間伐材による木工教室

■川の健康診断

■放課後子ども教室 など



町づくりへと活動が拡大
「青少年環境フォーラム」を開催。官・学・民・企業の共同体により、活動の輪が広がっています。

参加した皆さんの声

■高校生たちの頑張りを感じました。いまだき！の感じの子から、スポーツマン、そして優等生な雰囲気の子たちまで、みんながひとつのことに取り組んでいる姿が素敵でした。高校生たちのインタビューでも「八代のために」「いつもお世話になっている地元のみなさんのためになれば」など、素晴らしい感想ももらえました。（地域ボランティア）

■高校生たちが仲良く作業しているのを見て、ほのほのさを感じながら頼もしく思いました。また、各団体の方々とも知り合えて、自分にとってたいへん勉強になりました。（地域ボランティア）

3つの工夫

進める工夫

会の名前の通り、「次世代の子どもたちのために」という共通する思いを持って、官・学・民・企業が協力し合い、活動を進めています。高校生・高専生・大学生にボランティアを募り、活動を企画運営する実行委員会に参画させることで、次世代を担う地域リーダーの育成を行っています。

広げる工夫

イベントなどを実施する際、主催団体を連携団体が企画・進行・宣伝・動員にいたるまでサポートしています。これを入れ替わり行うことで、各団体のつながりが深まり、一丸となつての町づくりへ活動が広がっています。活動には、八代市内の全高校が参加しており、各校へ年間計画の配布し、参加を募っています。

続ける工夫

若い世代が活動に参加することで環境意識を高め、また次の世代へ活動を引き継いでくれるように、広く情報発信し、青少年育成に力を注いでいます。小・中学生への環境学習の指導、学習用資料の開発をはじめ、新たな領域に挑戦しながら、11年半に渡り活動を継続しています。



本を通して交流
本の貸し出しだけでなく、おはなし会や勉強会を開催し、子どもと大人の交流の場となっています。

まつお文庫 地域の子どもと大人が 交流を深める“本のある遊び場”

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

活動内容の紹介

本とおはなしとあそびを通して心を育む

「本とおはなしとあそびを通して、子どもたちが心豊かに成長すること」「本のあるあそび場として、地域の子どもと大人が出会い、交流を深めること」「子どもの本の楽しさを、大人にも知ってもらうこと」などを目的として、週2日、自宅を開放し、本の貸し出しを行っています。7,600冊の絵本・児童書を揃え、毎回おはなし会を実施するほか、工作・お菓子作り・昔のあそびなども楽しめるよう準備しています。大人向けの勉強会なども開催しています。

文庫の日が大人同士の交流の場にも

35年間にわたる活動の継続により、多くの子どもと大人が文庫に親しみ、利用し、交流を深めています。2011年度には、文庫を73回、本の勉強会「レンゲの会」など大人向けの会を31回開催。1,592人が文庫を訪れ、2,487冊の貸し出しを行いました。活動を理解し、支える地域住民が増え、大人同士の交流の場ともなっています。かつて文庫を利用していた子どもが親になり、子どもを連れて参加するなど、二代にわたる利用者も増えています。

参加した皆さんの声

- おばさん、文庫やめたら、私がそのあとやるからね。(小学4年生女子)
- 今日早く来たから、おすすめの本のコーナーに、私のおすすめの本を並べていい?(小学4年生女子)
- この子が結婚して、子どもができて、孫を連れて文庫に来るのが私の夢です。それまで文庫を続けてください(保護者)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

文庫だけでなく文集の発行、ブログなどを通して、文庫を利用する子どもたちだけでなく、保護者や地域住民にも活動内容を広く伝えていきます。そのため、地域に認知が進み、協力者も増え、新規の利用者も多く訪れています。子どもたちが、本の楽しさを知ると共に、文庫に来る楽しさをほかにも見つけられるよう、おもちゃを置いたり、クリスマス会や子ども市などのイベントを実施しています。さらなる継続を目指し、活動しています。



コミュニティの中心に
図書館を設置するだけでなく、運営するチームづくりも行い、地域コミュニティ醸成をサポートしています。

「みんなのとしよかん」プロジェクト 図書館の設置と運営により 子どもを見守るコミュニティを育成

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

活動内容の紹介

図書館を地域コミュニティの中心に

震災や自然災害などにより移住を余儀なくされた地域や、過疎化が進む地域に、コミュニティを醸成できる場所として、図書館を設置しています。図書館では、カルチャー教室や学習指導、あそび教室なども開催し、人が集まる居場所づくりや地域コミュニティづくりのサポートを行っています。図書館を管理するための地域チームづくりも行い、地域住民による、自立したコミュニティの中心としての図書館の構築を目指しています。

活動の広がりなど

地域と子どもがつながるきっかけに

活動開始以来、10館以上の図書館を設置し、子どもを育てる上で欠かすことのできない地域コミュニティづくりを進める活動を続けています。図書館ができたことにより地域コミュニティが生まれ、学習支援や未就学児支援など地域の子どものためにさまざまな取り組みを始めたところ、地域の大人で地域の子どもを見守る仕組みを作ったところなどもあります。小児病棟に図書館や図書コーナーを設置するなど、活動を展開しています。

参加した皆さんの声

- 「こういった場所ができてすごいうれしい!」と言ってくれ、毎日のように通う子どもがいる。(図書館設置以前は書店もなかった地域の住民)
- 娘は本を読むのが大好きで毎日のように来ている。近くに図書館があるようでありがたい。(被災地の仮設図書館を利用する保護者)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

図書館の運営に際しては、自治会や任意団体による地域チームをつくり、地域で連携しながら自主的に運営できるようにサポートしています。教室やイベント開催の際は、地域や小学校と連携して回覧板や資料配布で告知を行い、地域に認知を広げています。夏休みに「読書感想文コンクール」の課題図書コーナーを設けるなど、定期的な催しも開催し、子どもたちだけでなく保護者にも興味を持ってもらえるよう工夫を図っています。



遊びの拠点を運営
子どもたちの遊びの
拠点運営と子育て支
援事業により、よい子
育て環境づくりを進
めています。

三ツ又冒険遊び場ためき山

冒険遊び場を拠点に進める 自由に育ち、育てられる環境づくり

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

活動内容の紹介

子どもも大人も自分らしくいられる場所を

子どもたちが地域ですこやかに育つことができる街づくりを進めることを目的として、子どもたちの遊びの拠点「三ツ又冒険遊び場ためき山」の運営をはじめ、さまざまな活動を展開しています。「ためき山」は、地域のボランティアスタッフが協力し、手作りの遊具などを設置して子どもたちが自由に遊べるよう整備しています。日常の開園のほか、お祭りなどのイベント、子どもや遊びへの理解を深めるための研修や講座も行っています。

活動の広がりなど

自由な遊びと異年齢交流を通して成長

「ためき山」は、年間約140日開園し、約1万人が利用しています。子どもたちは、自然の中で自発的で自由な遊びを展開し、また異年齢交流を通して成長し合い、自尊心や将来の夢を育てています。13年間にわたる活動で、遊びに来ていた子どもが成長した姿を見せにきたり、スタッフとして関わるなど、遊び場を担う人材が育っています。遠方からの来園や家族での参加も多く、学校や団体からも広く利用されています。

参加した皆さんの声

- そこにあると思うだけで安心する、ここに来れば遊び相手がいる、いろいろなことができる（「ためき山」のいいところは？という質問への子どもたちの答え）
- この遊び場がなかったら、自分はもうなっていたかわからない（不登校だった中学生）
- 子どもたちが全力ではしゃいで遊べる、とても楽しい空間でした。（奉仕の時間で来園した高校生）
- 大人も子どもも自由にいられる居心地のよい場所。（保護者）

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

子どもが自由な遊びを通して自ら育つことを大切にするために、資質を備えたプレーリーダーを中心に遊び場作りを行っています。市内の活動団体でネットワークを構成し、共同で遊び場を開いたり、シンポジウムを行うなど、連携した活動を行っています。スタッフのスキルアップと共通理解のため、定期的に研修や会議を行っています。市や関係機関と協力し、冒険遊び場の制度化に向け話し合いを進めています。

●所在地：〒194-0044 東京都町田市成瀬1-19-32 岡本恵子方 ●TEL/FAX：042-728-9240
●E-mail：asobekodomotati@yahoo.co.jp ●http://www.tanuki-yama.com/ ●代表者：大野 浩子 担当者：岡本 恵子



季節毎の自然を体験
自然を体験しながら
多世代が学び合える、
さまざまなプログラ
ムを実施しています。

みやこだ自然学校

豊かな里山をフィールドに 多彩な自然体験プログラムを実施

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

活動内容の紹介

地域と人をつなぎ、自然と暮らす体験を

「みやこだ自然学校」のコンセプトは、地域の森・田・畑と人をつなぎ、ローテクをベースとした「循環型社会のミニモデルをつくり体験すること」。力を合わせてつくりあげる仲間づくり、自然と暮らす感覚をつちかうこと、自然の力を借りて健康になることを目的として、さまざまな自然体験プログラムを実施しています。食とエネルギーを自給自足しながら、収穫体験やごはんづくりなど、季節の行事に合わせたプログラムを行っています。

活動の広がりなど

幅広い年齢層が交流し、主体的に活動する場に

0～3歳親子対象の「まめっちょプログラム」、3歳以上の親子対象の「風の子プログラム」、週末のファーマーズクラブ、月曜日の母親サロンなど、年間120回程度のプログラムを実施しています。会員数の増加に伴い、親同士の交流が進み、子育て相談の場ともなっています。地域住民、学生ボランティアなど幅広い年齢層が活動に参加し、子どもたちと交流を深めています。サロンの企画・運営など、会員が主体的になり活動を進めています。

参加した皆さんの声

- 古民家と豊かな里山の環境の中で、子どもたちがのびのびと自然と遊び、自然との関わりを学べる、とても貴重な体験をします。（中略）最初は虫に近寄れなかった子どもたちも、今では興味を持って近づき、いつのまにか自然の中で遊ぶことが得意になりました。（保護者）

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

親子の体験の共感・共有を重視し、親子参加を原則としたプログラムを実施しています。集客の固定化のため会員制を採用し、毎年会員アンケートを実施してプログラムへ反映させています。養蜂家、環境ネットワーク、企業、アーティストなどと連携し、地域連携企画を行うなど、地域に活動の輪を広げています。スタッフと会員がフラットな関係を築ける組織づくりを行い、主体的な企画、運営につながっています。

●所在地：〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町600-23 ●TEL/FAX：053-437-3032 ●E-mail：seaway@i.gmob.jp
●http://satono-ie.org/ ●代表者/担当者：加藤 正裕



多文化なまちづくり
子どもたちの背景を
生かしたまちづくり
を通して、多様な文化
への理解を深めています。

こどもがつくるこどものまち「たぶんかミニとよなか」 多文化な子どもたちが活躍する まちづくりワークショップ

●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

●3つのところ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

活動内容の紹介

国籍や文化を超えて、つながり合える場に

多様な背景を持つ子どもたちが、仲間と出会い、つながり、活躍できる場を目指し、“多文化”の視点を取り入れた子どものまちづくり「たぶんかミニとよなか」に取り組んでいます。活動は、交流イベント「多文化フェスティバル」の一部として実施されています。子どもたちは、高校生・大学生ボランティアのサポートのもとで、住みたいまちについて話し合い、お店などを作り、働き、疑似通貨を受け取る、まちづくりを体験しています。

活動の広がりなど

多様な文化や違いを理解し、認め合う心を育む

子どもたちは、まちづくりのための会議、まちづくり本番の活動を通して、主体性や社会性を身に付けています。また、自分とは異なる背景を持つ友だちに出会い、一緒に活動を進めながら交流を深める中で、子どもたちは、相手の文化的背景を共有し、互いの違いを尊重し、認め合おうとする心を育てています。それぞれの多文化な背景を生かしたまちづくりが、子どもたちの絆を深め、自分らしくいられる「居場所」として機能しています。

参加した皆さんの声

- いろいろな国の人が出て、最初は緊張したけど、後から楽しかった!
- 世界の人々と交流できて楽しかった
- いろいろな人と出会って、友だちになれた

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

豊中市国際教育推進協議会と毎年共催するイベントの一部として実施することで、市内の小中高校、各団体、地域の保護者や外国人など、幅広い人々への周知が可能となり、参加者が広がっています。学習支援や国際理解プログラムなどの子どもサポート事業を日常的に実施しており、それらの事業を担う学生ボランティアが「たぶんかミニとよなか」をサポートし、日常の活動で把握した子どものニーズや課題を活動に反映させています。



苦しむ子と親を支援
いじめなどで苦しむ
子どもたちの心をケ
アし、社会復帰をサ
ポートしています。

親と子の心のSOSを受けとめて ～長期欠席・いじめ・ひきこもりで苦しむ子どもと親達の心を救い、学校・社会復帰へと導く～ 苦しむ子どもたちへの理解を広げ、 子どもと保護者を救う支援活動

●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

●3つのところ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

活動内容の紹介

増え続けるニーズに応じて教室を開設

長期欠席やいじめ、ひきこもりなどで苦しむ子どもと保護者の支援活動を行っています。1985年に文庫として開設後、いじめなどで学校に行けなくなった子どもたちの相談が増え続けたことから、教室、カウンセリングルームとして支援に取り組むようになりました。子どもたちの心をケアし、社会復帰をサポートする「翼教室」、青年や成人を対象とした「カウンセリングルームつばさ」、保護者を対象とした「つばさの会」を中心に活動しています。

参加した皆さんの声

- 翼教室と出会うまでは、家の中に引きこもって、家から一歩も出ず希望のない毎日を送っていた。しかし翼教室に行くようになって、今では毎日が希望に満ちている。翼教室には同じ境遇の人がたくさんいる。だからお互いを信じ合えるし、どんなことだって話し合える。(子どもの作文より抜粋)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「翼教室」では、専門的な立場から心のケアを行い、教科学習やスポーツ、集団活動などを指導し、学校、社会への完全復帰まで導きます。子どもを救うために必要な家庭からの理解と協力を得るために、「つばさの会」を設け、保護者を対象とした指導も行っています。リーフレットや会報を配布し、活動の理解を広げ、活動継続のための寄付を募っています。27年間にわたり活動を継続し、さらにNPO化により、活動の拡大を目指しています。



地域で教育活動を実践
子どもたちが公民館など
に寝泊まりしながら
通学する「長期通学合
宿」に地域一体で取り
組んでいます。

地域で取組む長期通学合宿 子どもたちの心を育み、地域再生へ 地域一体で取り組む生活体験活動

●活動領域

- 家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

- 自分に 他者に 社会に

活動内容の紹介

公民館から学校に通う5泊6日の通学合宿

子どもたちが学校に通いながら、公民館などに寝泊まりし、炊事や掃除などを自分たちで行う生活体験活動「長期通学合宿」を行っています。合宿は5泊6日で、地域の4～6年生児童が参加し、地域住民や学生ボランティアがサポートしています。子どもたちの人間関係力や生活力の向上、子どもを核とした地域コミュニティの再生、地域の子どもは地域で守り育てる「地域教育力」の向上を目指し、地域が一体となり活動に取り組んでいます。

活動の広がりなど

ボランティアが増加し、活動が地域に浸透

長崎県が2009年より通学合宿を推進してきたのを受け、2010年から活動に取り組み始めました。以来、3回の活動を実施し、62名の子どもたちが参加しています。地域住民や学生ボランティアとの交流を通して、子どもたちは多くを学び、中学生になり活躍している生徒も多くなります。地域ボランティアが年々増えのべ150名となり、活動が地域に定着しつつあります。地域企業との連携も進み、地域全体が活性化しています。

参加した皆さんの声

- テレビもゲームもなく最初は少し辛かったけど、みんなと声を掛け合って乗り切ることができた。
- 買物から調理・後片付けまで、これほど大変だとは思ってなかった。これからは少しでもお母さんのお手伝いをしたい。
- 我が子に対する地域住民の熱い思いを感じるとともに、子育てに関して改めて考える機会となった。(保護者)
- これほど地域の方が熱心に取り組んでいたことに感謝している。これからは私が積極的に地域に関わるようにしたい。(保護者)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

合宿では、生活に必要なこと以外特別なプログラムを組まず、子どもたちが日常的な生活を通して人間関係力や生活力を育み、地域住民と交流を深められるよう実施しています。活動は、保護者にとって子育てを見つめ直す機会ともなっています。3回の活動実施により、もらい湯を提供する地域ボランティアが増え、活動の輪が広がっています。活動継続のため、地域の企業と連携し、食品を提供してもらうなど、活動の低予算化を図っています。



おもちゃ遊びの場を提供
おもちゃを貸し出す
「おもちゃ図書館」をは
じめ、障がい児や乳幼
児の遊びに関するボラ
ンティア活動を行って
います。

障がい児のための「おもちゃ図書館」活動 親子に笑顔を広げる おもちゃ遊び体験の場

●活動領域

- 家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

- 自分に 他者に 社会に

活動内容の紹介

おもちゃ遊びの重要性を啓発

障がい児や乳幼児におもちゃを貸し出すことで、発達におけるおもちゃ遊びの重要性を啓発するために、名古屋市初回の「おもちゃ図書館」を立ち上げました。おもちゃ遊びの楽しさを経験してもらい、親子関係のつながりを深めるために、さまざまな活動を行っています。月に一度、生涯学習センターで「おもちゃ図書館」を開館し、無料でおもちゃの貸し出し、手作りおもちゃ教室、人形劇遊び、無料発達相談活動などを実施しています。

活動の広がりなど

連携、継続により広がる活動の輪

愛知県、また全国のおもちゃ図書館連絡会を通して、おもちゃ図書館関係者と研修を重ね、専門知識を持つボランティアとしてのスキルアップを図り、充実した活動につながっています。定期的な「おもちゃ図書館」開館のほか、地域に出向いての「移動おもちゃ図書館」、乳幼児のための分館開館、東日本大震災で被災した子どもたちの心のケア活動、車いすダンスやスポーツを通して障がい者の生活を充実させる活動など、さまざまな活動を展開しています。

参加した皆さんの声

- こんな素敵なおもちゃがあったんだ！（幼稚園男児）
- 我が子がこんなに真剣な顔で集中している姿に驚きました。（小学生の母親）

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「おもちゃ図書館」にとどまらず、乳幼児のための分館「おもちゃのおうち」を週5日開館、被災した子どもたちの支援、障がい者の余暇活動の充実など、さまざまな活動を実践しています。全国のおもちゃ図書館と連携し、情報交換や研修を行うほか、グローバルな視野を持ち活動の輪を広げるために、アジア会議、国際会議で関わる諸外国の実践者とも情報交換を進めています。障がい児や乳幼児の遊びに関するボランティア活動を約30年間にわたり継続しています。



病棟での読み聞かせ活動
小児入院病棟に出向き、子どもたちや付添いの大人を対象に、絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

小児病棟での絵本読み聞かせ 入院中の子どもと保護者に 絵本を楽しむ時間を提供

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのところ

自分に 他者に 社会に
向かうところ 向かうところ 向かうところ

活動内容の紹介

子どもたちの心を育てる栄養に

入院中の子どもたちの心を育てる「栄養」の一端になればとの思いから、総合病院の小児入院病棟に出向き、絵本の読み聞かせをするボランティア活動を行っています。月2回、プレールームで読み聞かせを行うほか、季節毎に病院で行われる行事の際には、付き添っている大人も楽しめるよう、紙芝居を読むなどの活動を行っています。また、病室から出られない子どもたちのために、病室でも読み聞かせを行っています。

活動の広がりなど

継続により活動が展開、浸透

5年間にわたる活動の継続により、病院内に活動が浸透しています。絵本に興味を示さなかった子どもや保護者が、絵本が好きになったり、読んでほしい本をリクエストするようになるなど、活動により絵本の魅力が確かに伝わり、根づいています。プレールームでの定期的な読み聞かせにとどまらず、病室から出られない子どもを対象とした読み聞かせ、希望する子どもへの絵本の貸し出しなど、ニーズに合わせて活動を展開しています。

参加した皆さんの声

- 楽しかった。近江さんのこと一生忘れない。
- かわいい本ばかり持ってきてくれてありがとう。
- 私たちにも読んでくれる？(評判を聞いた保護者から)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

長期入院を余儀なくされた子どもたちとその保護者のために、さまざまな工夫を図っています。病棟保育士と協力し、入院生活の楽しみになるよう子どもたちに事前告知を行っています。絵本や紙芝居は、季節に合わせた題材やしかけのあるものを選んだり、楽器演奏を取り入れるなど、毎回楽しめるよう工夫しています。病室を訪問しての読み聞かせの際には、ベッド脇で読める簡易紙芝居舞台を用意して、親子で楽しめるようにしています。

TEL : 090-1384-1118 E-mail : anko1217@hotmail.com



子どもたちの“こころを育む活動”

2011年度受賞者 この一年(2012年) の活動報告

子どもたちの「こころを育む」活動を支援する全国運動は、2008年度よりスタートし、第五回である12年度までに、計77の団体・個人の方々による優れた活動が表彰されました。受賞された方々の多くは、さらに活動の輪を広げたり、新たな領域に踏み出したりと、「こころを育む」活動を続けています。ここに、第四回である11年度受賞団体・個人の方々の受賞対象となった活動および受賞後の活動をご紹介します。



全国大賞

石榑の里コミュニティ (三重県)

子どもは地域の宝 地域全体で子どもを守り育てる ～交流・協働・共育の学校づくり、人づくり、里づくり～

小学校を拠点に「学校、人、里づくり」に 取り組む地域住民・団体を結ぶネットワーク

「石榑の里コミュニティ」は、石榑小学校を拠点に、地域全体で子どもを守り、育てる活動を展開しているボランティア組織です。「子どもは地域の宝であり、地域と学校が力を合せて子どもを育てる」「交流・協働による学校づくり、人づくり、里づくり」を活動理念として、学校・家庭・地域が一体となり、企業や団体と連携しながら、さまざまな取組みを企画・運営しています。



老人会など有志の地域住民による「見守り隊」が、毎日朝夕の通学を見守りながら、子どもたちとの交流を深めています。

校舎づくり、コミュニティの組織づくりにより 学校が地域の交流の場として定着

学校と地域が一緒になって計画を進めた新校舎づくり、学校と子どもたちを地域住民が常に取り囲むコミュニティの組織づくりと活動により、学校が地域の交流の場として定着しています。地域について学び、地域住民と交流する活動を通して、子どもたちに地域住民への感謝の気持ち、学校や地域への誇りと愛情が育っています。子どもを中心に親・地域住民・教師が交流を深めています。



遠足や登山など、地域の資源を活かした活動を実施。地域を知り、地域に学び、地域を愛する機会となっています。



コミュニティの組織づくりをはじめ、工夫に満ちた活動を通して、地域の絆が深まっています。

2012年の活動

「第6回石榑の里まつり」開催

2012年11月18日に「第6回石榑の里まつり」を開催しました。子どもたちから地域住民へ感謝を伝えるセレモニーや、老人会による昔遊び教室、民生委員による環境啓発活動などが行われ、約1,300名が参加しました。午後からは、全国キャラバン「こころを育む総合フォーラム2012 in 石榑の里」を開催しました。

交流・協働・共育活動の継続

「石榑の里まつり」の企画・運営をはじめ、地域ボランティア講師による体験・教育講座「わくわくスクール」の定期開講、地域図書館の運営、老人会を中心とした「見守り隊」による通学の見守りなど、さまざまな活動を継続して行っています。



毎年の取組みの集大成である「石榑の里まつり」。コミュニティ活動の目的と成果を地域全体で共有しています。

3つの工夫

進める工夫

地域全体で子どもを守り育てるため、地域と学校からなるコミュニティを組織。地域の声を反映し建設した学校を拠点とし、子どもたちとの交流・学校との協働による「学校づくり、人づくり、里づくり」に取り組んでいます。

広げる工夫

「石榑の里会議」を設置し、「地域全体で子どもを守り、育てるために私たちができること」について考え、共有する場を設けています。地域のさまざまな団体・企業・大学と連携し、活動内容の充実と広がりを図っています。

続ける工夫

地域ファンドを設け、国道の草刈り請負や募金などで、活動継続のための資金を確保しています。「石榑の里まつり」で、子どもたちが地域住民に感謝を伝える機会を設け、参加者のモチベーションを高めています。

●所在地：〒511-0266 三重県いなべ市大安町石榑南 611 いなべ市立石榑小学校内 ●TEL：0594-78-0002
●E-mail: ishigure@inabe.ed.jp ●HP: http://www.inabe.ed.jp/ishigure/ ●代表：森 清光/担当者：藤田 美幸

ブロック大賞 (北海道・東北ブロック)

福島県田村郡三春町立沢石中学校 (福島県)

絆プロジェクト

郷土愛を育み、地域活性化へ。 中学生による地域活動

生徒数減少による町内中学校の再編を受け閉校が決まり、地域の人々は地域から中学生の姿が消えてしまうのではないかと危機感を抱いていました。そこで、地域と生徒の関わりを見直し、閉校後も地域と共に生きる生徒の育成を目指し、プロジェクトを立ち上げました。地域のまちづくり協会への参加、消防団の防災活動への参加、青年団と協力し地域の夏祭り運営に取り組むなど、さまざまな地域活動に生徒を参加させることにより、生徒と地域の絆づくりを行いました。



閉校後も地域と共に生きる生徒の育成を目指し、生徒と地域の絆づくりが進められました。

2012年の活動

2013年4月、沢石中学校と旧三春中学校、桜中学校、要田中学校の4校が再編され、三春町立三春中学校が開校しました。

ブロック大賞 (関東ブロック)

認定特定非営利活動法人 NPO カタリバ (東京都)

対話型ワークショップ「カタリ場」

高校生の自己肯定感を育む 先輩と対話し交流する場

高校生の自己肯定感を高めるための対話型ワークショップ「カタリ場」を、全国の高校へ出向いて実施しています。大学生や専門学校生のボランティアが中心となって高校を訪問し、高校生から夢や悩みのお話を引き出し、また自身の経験を語りかけます。年齢の近い先輩と対話する授業を通して、高校生たちは自分や将来について考え、気づきを得ています。

2012年の活動

ノウハウ移転により、 全国に広がる「カタリ場」

「カタリ場」を行いたいという全国からの要望に応え、研修や人材派遣、ツール提供などを通してノウハウの移転を進めており、これまで首都圏中心だった活動が全国に広がっています。兵庫県・北海道では地元NPOが、沖縄県では学生団体が中心となってカタリ場を実施しています。これまで、28都道府県で「カタリ場」が行われました。



「自分たちもカタリ場を行いたい」という声に応え、ノウハウを移転。各地域のNPOや学生団体が活動しています。

●所在地：〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 3-66-3 高円寺コモンズ 203 ●TEL：03-5327-5667 ●E-mail: pr-fr@katariba.net
●HP P: http://katariba.or.jp/ ●代表者：今村 久美/担当者：長井 帆菜

ブロック大賞 (中部ブロック)

特定非営利活動法人 阿羅漢 (石川県)

山代ファミリーサポートセンター施設事業～チャレンジ活動とたそがれハウス事業～

温泉場地域のニーズに対応した 子育て支援活動

温泉場地域において、経済状態の厳しい家庭などを対象に、さまざまな支援事業を行っています。廃業パチンコ店舗を活用した「山代ファミリーサポートセンター」を拠点とし、季節に合わせた体験プログラムや夜間学童事業を実施しています。子どもたちの学力・生活能力向上と共に、地域のコミュニティ機能向上を目指し、活動を展開しています。

2012年の活動

利用者が増加し、 多世代の支援施設に発展

子どもたちや子育て中の親子、高齢者、障がい者、地域の若者など温泉場の各世代が集う支援施設として、広く利用されています。地域コミュニティをさらに発展すべく、「早寝早起き朝ごはん」運動の一環として毎週「朝がゆの会」を事業展開しています。中高生ボランティアの活躍などから名物イベントとなり、温泉場の風物詩にもなってきました。



薪焚き・朝がゆの会。地域のコミュニティ構築に邁進し、関係各方面から広く賛同を得ています。

●所在地：〒922-0242 石川県加賀市山代温泉 18-52 ●TEL：0761-76-1085 ●E-mail: arahanbb@yahoo.co.jp
●HP P: http://www.geocities.jp/arahan1236/ ●代表者：福田 美智子/担当者：蔵 美帆

